

今年もおひな様たちの競演が開幕

伯耆の国・出雲街道根雨宿 福よせ雛プロジェクト



定住した 3500 体のおひな様を代表して感謝状も



偶然テラスを訪れた人もユニークなおひな様に夢中の様子

日野町では、日本社会文化教育機構「福よせ雛プロジェクト」（吉野孝子代表）と連携し、「伯耆の国・出雲街道根雨宿『福よせ雛』プロジェクト」（同実行委員会主催）に取り組んでいます。同プロジェクトでは、おひな様の持ち主に「ふるさと住民票」を、ひな人形には「おひなさま住民票」を発行し、定住してもらうという全国初の取り組みを行っています。

2月2日には、金持テラスひので、今年の福よせ雛展示の幕開けを告げるオープニングセレモニーが開かれました。

セレモニーでは、同実行委員会の佐々木幸人さん（根雨）が、「かつては何もないといわれたいたが、オシドリや金持神社、そして福よせ雛と、あふれんばかりの魅力ができた。これからも地域一丸となって盛り上げていきたい」とあいさつ。また、定住したおひな様に「福よせ雛自治会を設立した」として、埜田町長から感謝状が贈られるというユーモアあふれる一幕も見られました。

福よせ雛は、5月6日まで、金持テラスひのをはじめ町内各所で展示されています。日野での暮らしを満喫中のものから世相を反映したもので、ユニークなおひな様ばかり。ぜひ会いに来てみてはいかがでしょうか。

“ジゲの誇り”を後世に

ふる里 “たたら” 座談会



多くの住民が集まり、たたらの魅力を再認識

1月25日、菅福公会堂で、ふる里“たたら”座談会が開かれました。

これは、伯耆国たたら顕彰会（田貝英雄会長）が、地域に眠る“たたら”について知識を深めてもらおうと、菅福地区の住民に呼びかけたものです。

菅福地区には、同会によって39カ所もの遺構が確認・調査されているほか、近くには奥日野を代表する「都合山たたら跡」（中菅）もあり、古くから「たたら製鉄」と深く結びついてきました。

当日は、たたら跡の調査報告をはじめ、「たたら」に関する情報や伝承についての聞き取りも行われました。また、電子紙芝居「伯耆安綱伝」も上映され、「たたら製鉄」の魅力をあらためて実感する機会となったようです。

水かけ派手に厄落とし

菅福地区伝統奇習行事「ホトホト」



きれいな放物線を描き水がホトホトに

みのかさ姿のホトホト役に水をかけて厄を払う、菅福地区の伝統奇習行事「ホトホト」（里山元氣塾主催）が、2月1日に行われました。

これは、厄年を迎える人の家庭に、神の使い「ホトホト」が、お札やわらの馬、しめ縄などの縁起物を持って訪れ、家の人から祝儀の品を受け取って帰るところに水をかけると厄が落ちるといわれるもので、古くから菅福地区に伝わる伝統行事です。

今年は、数え年で61歳と42歳を迎える2軒の家庭で行われ、家族や地域住民が総出でホトホト役の男性に水をかける姿が見られました。





# 地域医療の存続に向け活発な議論を

## 日野郡連携会議講演会



注目を集める病院の統合再編問題に鋭く切り込む伊関さん



える」と題し、城西大学経営学部教授の伊関友伸<sup>ともし</sup>さんが講演を行いました。

自治体病院の経営の研究を続け、統合再編など多くの事例を経験している伊関さん。今回の公立・公的病院の統合再編の話題に触れ、「各病院で働く人や患者に不安を与える可能性が高く、公表について納得できなかった。丁寧な議論が必要だった」と振り返りました。

日野病院や日南病院など自治体が運営する公立病院は、高齢化が進む中山間地をはじめとした地方にとつて、なくてはならない存在です。そんな中、厚生労働省は、昨年9月、診療実績の分析結果を踏まえ、424病院を「再編・統合が必要」と発表しました。県内でも4カ所の病院が公表され、地域で不満や困惑の声が上がっています。

日野郡3町と鳥取県で構成する日野郡連携会議では、自治体病院の重要性をあらためて認識してもらおうと、1月29日、町文化センターで講演会を開きました。

当日は、「果たして自治体病院は不要なのか？」その存在意義を考

要だと伊関さんは話します。加えて、「本格的な少子高齢社会の到来を控え、これから医療介護人材も不足していく。そうした人材をいかに集めるかが、地方自治体の最大の課題になる」と指摘。子育て環境の整備や若者の流出阻止、病院のバージョンアップなど実例を紹介しながら、地域全体で取り組んでいく必要性を訴えました。

伊関さんは、「すべて人任せでは地域医療は崩壊する。当事者の一人として、住民を含めた病院にかかわるすべての人が、地域医療を考へ行動することが必要」と話し、地域での議論の活性化に期待を寄せました。

# 地域のきずな深める機会にも

## 黒坂・菅福地区でどんどさん



願い込め子どもたちの火入れに参加

一年の無病息災を願う地域行事、どんどさんが、1月12日、黒坂地区コミュニティ推進協議会（中原明会長）主催で開かれました。会場となった黒坂小学校校庭には、黒坂地区などから多くの人が正月飾りや書き初めなどを持って集まりました。

神事後、校庭の中央で地域の住民や子どもによる火入れが行われ、参加者は燃えさかる炎に家内安全や無病息災などを祈っていました。また、会場では、ぜんざいと甘酒が振る舞われ、地域住民らは交流を深めていました。

# 拳に一年の精進を誓って

## 空手寒げいこ



冷たさも何のその。気合を乗せて拳を突き出す

寒さの中で心身を引き締め、今年一年の精進を誓う、少林寺空手道錬守会館鳥取地区本部（松本達也本部長）による空手寒げいこが、1月26日、町文化センターと日野川で行われました。

当日は、郡内外の小学生や中学生などを中心に多くの会員が参加。子どもたちは、空手の形の演武、足蹴りでの板割りなど、一年間の成果を披露しました。

最後は、家族らの声援を背に勇氣を出して身を切る冷たさの日野川へ。「えいっ、えいっ」とかけ声を合わせ、拳を突き出していました。